



Bayer

芝草通信

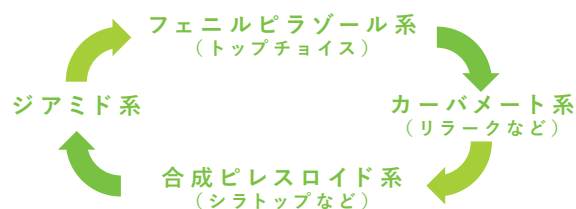
“作用機構別の殺虫剤早見表”

芝生に登録のある殺虫剤を作用機構別にグループ分けしてみました

表内の英数字=IRACコード

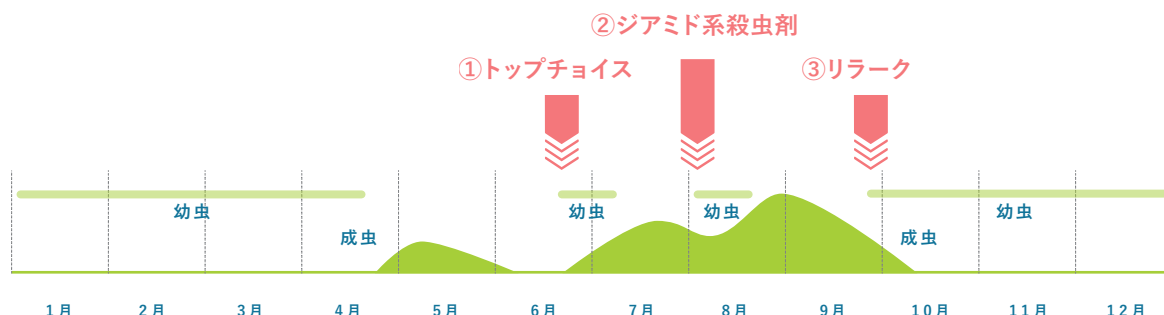
一次作用部位	主要グループ	サブグループ あるいは 代表的有効成分	有効成分	農薬名(例)
神経作用	1 アセチルコリンエステラーゼ (AChE) 阻害剤	1A カーバメート系	カルボスルファン	ガゼット粒剤
			BPMC(フェノブカルブ)	アストロ乳剤
			チオジカルブ	リラーク DF
		1B 有機リン系	アセフェート	オルトラン水和剤
			ダイアジノン	ダイアジノン SL ゾル
			MEP(フェニトロチオン)	スミチオン乳剤
	2 GABA 作動性塩化物イオン (塩素イオン) チャネルブロッカー	2B フェニルピラゾール系	イソキサチオン	カルホス乳剤
			プロチオホス	トクチオン乳剤
			フィプロニル	トップチョイスフロアブル
			ビフェントリン	パンチショットフロアブル
神経及び 筋肉作用	3 ナトリウムチャネルモジュレーター	3A ビレスロイド系 ピレトリン系	シハロトリン	サイハロン水和剤
			エトフェンプロックス	サニーフィールド液剤
			ペルメトリン	エンパー MC
			シラフルオフェン	シラトップ EW
			トラロメトリン	スカウトフロアブル
			アセタミプリド	イールダー SG
	4 ニコチン性アセチルコリン受容体 (nAChR) 競合的モジュレーター	4A ネオニコチノイド系	クロチアニジン	フルスウィング顆粒水和剤
			イミダクロプリド	タフバリアフロアブル
			チアメトキサム	ビートルコップ顆粒水和剤
			クロラントラニプロロール	アセルプリン
生育調節	28 リアノジン受容体モジュレーター	28 ジアミド系	シアントラニプロロール	エスペランサ
			シクラニプロロール	ダブルトリガー液剤
			フルベンジアミド	スティンガーフロアブル
			クロルフルアズロン	ナイスイーグル SC
	15 CHS1 に作用するキチン生合成阻害剤	15 ベンゾイル尿素系	テフルベンズロン	ショットイン乳剤
			メトキシフェノジド	グレモ SC
			テブフェノジド	ガードワン水和剤
	18 脱皮ホルモン (エクダイソン) 受容体アゴニスト	18 ジアシル-ヒドラジン系	パチルス・チューリンゲンシス菌の生芽胞及び産生結晶毒素	ゼンターリ顆粒水和剤
			パチルス・チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素	デルフィン顆粒水和剤
				バシレックス水和剤
BT 剤	11 微生物由来昆虫中腸内膜破壊剤	11A <i>Bacillus thuringiensis</i> と 生産殺虫タンパク質		トアローフロアブル CT
作用機作が不明 あるいは不明確	UN	ピリダリル	ピリダリル	シバマル

殺虫剤もローテーション散布の時代へ



殺菌剤だけでなく、殺虫剤も異なる作用機構のローテーション散布をおすすめします。

例えばシバツトガ対策では



- ① 6月下旬はケラとの同時防除を念頭に **トップチョイス** を選択。
- ② 最も発生量が多くなる盛夏期には長期残効型の **ジアミド系殺虫剤** でしっかり防除。
- ③ 来春のことを考えると秋の防除が重要。秋の散布で越冬する個体数を抑制。

Point

フェニルピラゾール系の
芝用殺虫剤は
トップチョイスだけ！

TOPICS

殺虫剤‘トップチョイスフロアブル’の登録を拡大しました

作物名	適用害虫名	使用時期	希 釈 倍 数	使用 方 法	本剤およびフィプロニルを含む 農薬の総使用回数	
芝	シバツトガ	発生初期	3000 倍～ 4000 倍	200ml/㎡	5 回以内	
			7500 倍～ 10000 倍	500ml/㎡		
	ケラ		3000 倍～ 4000 倍	200ml/㎡		
			7500 倍～ 10000 倍	500ml/㎡		

2019年6月 登録拡大

ケラに対して散布水量200ml/㎡での散布が可能となりました。



トップチョイス
フロアブル

今まで以上に使いやすくなったトップチョイスフロアブルを、ぜひご使用ください。

